

# 朝日信用金庫の地域密着型金融の推進計画

平成 17 年 8 月  
朝日信用金庫

## 1. 対象期間

平成 17 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日（2 年間）

## 2. 経営理念

(1) ミッション(使命)：『ベストコミュニティバンク』

(2) スローガン：『街の鼓動に敏感です』

### 経営の基本方針

- 1) 私たち朝日信用金庫は、地域社会の一員として、豊かで活力ある街づくりに貢献します。
- 2) 私たち朝日信用金庫は、信頼の絆を大切にして、地元のお客さまの発展と豊かな暮らしのために全力を尽くします。
- 3) 私たち朝日信用金庫は、職員一人ひとりの人格を尊重し、働きがいのある職場とゆとりある生活を実現します。
- 4) 私たち朝日信用金庫は、常に経営の強化をはかり、業界の連帯と強調のもと、安定かつ調和ある発展に努めます。

### 役職員の行動指針

- 1) 地域を愛し、地域を歩き、地域の明日を考えよう。
- 2) 誠意と節度と誇りをもってお客さまに接しよう。
- 3) 自己研鑽に励み、持てる力を最大限に発揮しよう。
- 4) コミュニケーションを深め、いきいきとした職場をつくろう。
- 5) 現状に満足することなく、革新と創造の精神を持ち続けよう。

### 3. 目指す姿（将来ビジョン）

#### (1) 信金らしさのさらなる追求

お客さまのことを誰よりもよく知ることが信金の原点(地域・顧客密着)  
中小企業の真のパートナーとしての営業力の発揮(「地域になくてはならない金融機関」としての存在感)

#### (2) 環境変化に敏感な経営戦略

従来からの事業先中心の取引推進に加え、個人取引の推進にも軸足  
CSR(企業の社会的責任)、コンプライアンス、個人情報保護、新BIS規制等に対する積極的な対応

#### (3) 時代が求める新しい機能、サービスの提供

IT 技術革新への積極的な対応  
コンサルタント機能の充実  
多様な商品の提供(外貨預金・投資信託・個人年金保険等)

#### (4) 経営の高い健全性

ペイオフ時代におけるお客さまからの信頼の裏付け  
リスクビジネスに従事する金融機関にとっての必須条件

## 期間中に推進する重要施策

### 1. 『事業再生・中小企業金融の円滑化』に関する取組方針

当金庫は創業以来、「地元中小企業を金融を通じて守り、支援すること」をその使命としてきました。

昨年度までのリレーションシップバンキング機能強化計画においてもこの精神を堅持し、中小企業支援のための様々な事業活動を展開してきましたが、今回の計画においてもこれをさらに押し進め、以下に述べるように創業支援、経営相談、事業再生など中小企業金融の円滑化、地域活性化に資する具体的施策についての取組みを強化していきます。

#### (1) 創業・新事業支援機能等の強化

創業支援活動等への取組みを進めるため、平成16年4月に産学官連携組織である「コラボ産学官」を設立しましたが、17年度からはこれを金融面から支援するためのファンドの創設や全国の信用金庫への門戸開放等により、さらに発展・拡充を図っていきます。とくに活動の基盤となる会員数の増加については、当金庫のお取引先で、18年度末150先以上を目標に会員増加を図ります(17年3月末同86先)。

加えて、中小企業金融公庫・日本政策投資銀行・東京都信用保証協会・情報処理推進機構・東京都産業労働局等と積極的な業務提携を行い、今後とも新しいビジネスの芽を発掘・育成するための活動を展開していきます。

#### (2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

お取引先企業等に対するコンサルティングについては、その機能充実を図り、「お客さまサポートセンター」に対する年間相談件数400件以上(16年度実績同234件)を目指します。加えて、外部組織との積極的な連携による情報提供、相談機能の充実、財団法人(朝日中小企業経営情報センター)による異業種交流・助成金・人材育成事業など、グループの総力を挙げたお客さま支援に取り組んでいきます。

取引先企業に対する経営支援については、体制をさらに整備・強化し、経営改善支援先(17年度は206先を選定)のうち毎年1割以上の先のランクアップを図っていきます。

#### (3) 事業再生に向けた積極的な取組み

ここ数年、新しい仕組みの金融支援や再生スキームが開発されてきておりますが、当金庫においても、東京都中小企業再生支援協議会等との業務提携をはじめ、様々なファンドへの出資を通じた再生業務に今後とも取り組んでいきます。

加えて、DES・DDS・DIPファイナンスといった新しい金融スキームへも可能な限り取組み、そのための人材育成にも取り組めます。

(4) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等

必ずしも無担保・無保証が金融の円滑化を促進するとは考えませんが、常々それを実現するための取組みも続けており、その一環として、目利き力の強化・向上はもとより、信用格付や信用リスク計量化技術を応用したスコアリングモデル融資についても、今後の重要課題と認識し取組んでいきます。

なお、新しい金融スキームであるCLO・私募債・シンジケートローン・PFI等についても可能な限り取組んでいきます。

(5) 顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化

法改正への迅速対応として、これまでの規定、取引約定書等の全面改定に加え、今後はお客さま用融資説明マニュアルの整備等、説明態勢の整備充実を図っていきます。また、相談・苦情への対応についても、具体的な事例の分析や営業店への還元等、日常業務に組み込む形で今まで以上に再発防止やお客さま対応の充実に力を注いでいきます。

(6) 人材の育成

日常業務を通じたOJTや内・外部研修への参加、さらには中小企業大学校への派遣等を通じて、地域密着型金融を推進していくために必要な目利き能力を備え、コンサルタント業務を担える人材の育成に努めていきます。

## 2. 『経営力の強化』に関する取組方針

地元中小企業の育成・支援や地域の活性化に積極的に取組んでいくためには、当金庫自らがまず経営力のより一層の強化を図り、その結果として地域の皆さまから幅広いご支持をいただくことが不可欠です。

このため、まずお客さまからの信頼の裏付けとなる経営の健全性のさらなる向上を図るため、収益管理体制の整備を通じた収益力の強化に努めます。

加えて、近年、金融機関が直面するリスクが益々多様化・複雑化している状況に対応し、その備えを万全とするため、法令遵守態勢の確立やリスク管理態勢の高度化はもとより、経営態勢(ガバナンス)の強化に取り組んでいきます。

こうした経営力の強化により、19年3月末の自己資本比率8%以上を目標とし、その達成を図っていきます(17年3月末同7.38%)。

(1) リスク管理態勢の充実

金融機関を取り巻くリスクの多様化・複雑化に対応し、当金庫では統合リスク管理委員会の下、各リスク領域別の管理委員会を組成する等、統率のある管理態勢を構築していますが、今後は、19年3月末の新BIS規制導入に備え、信用リスクの計量化に係る体制整備を含めリスク管理態勢全般の一層の高度化に努めていきます。

(2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上

平成 15 年 4 月から、スプレッドバンキング方式による収益管理制度を導入していますが、今後は、これに信用リスクを加味した収益管理への移行に取り組むほか、将来の管理会計導入を展望するなど、引き続き収益管理態勢の整備と収益力の向上に取り組んでいきます。

(3) ガバナンスの強化

経営内容や地域貢献活動等に関する情報開示促進のため半期開示の内容充実を着実に進めていくほか、総代会機能向上の観点から、新たな仕組みの導入を検討するなど、ガバナンスの強化に努めていきます。

(4) 法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化

研修や規定類の整備、点検・改善指導などのこれまでの体制に加え、17 年度は、部店長による「コンプライアンス宣言」制度を創設し、全ての役職員の意識高揚に努めるとともに、相互牽制機能の強化を図っていますが、今後も適切な顧客情報の管理を含めた法令順守態勢の確立・強化に取り組んでいきます。

(5) IT の戦略的活用

経営戦略をシステム面からサポートするため、ホストコンピューターと連動させる形で業務分野毎に高度なオープン系サブシステム(管理プログラム)を構築してきており、特にALM管理・収益管理・自己査定・信用格付・顧客データベース等の領域は、経営戦略実行にあたっての要となるため、かねてよりレベルアップに努めてきています。

今後ともセキュリティやシステムの信頼性向上に努めつつ、お客さま向けサービス力の強化を主眼に、積極的な整備・開発に取り組んでいきます。

3. 『地域の利用者の利便性向上』に関する取組方針

ベスト・コミュニティ・バンクを標榜する当金庫にとって、地域のお客さまの利便性向上に資することは究極の目標でもありますが、そのためには、これまで以上にお客さまのニーズに精通することが不可欠であると考えています。

そのための施策として、まず当金庫の実情を良く知っていただくための情報開示の充実に取り組むとともに、お客さまニーズの把握手段として、従前から実施してきたお客さま満足度調査についてもさらに工夫・改善を図っていきます。加えて、地域を活性化させるための具体的施策として、これまで以上に地元自治体との連携を深めるなど、地域貢献をより意識した営業施策に積極的に取り組んでいきます。

こうした施策の実施により、2 年間で、新規のお取引先を、預金で 14,000 先、融資で 6,000 先の増加を図ります。

(1) 地域貢献等に関する情報開示

9月期・3月期の法定開示に加え、6月期・12月期についても積極的な情報開示に取り組んでいます。今後は、金融面を通じた地域貢献やCSRの視点を踏まえた開示内容の拡充に努めるとともに、当金庫に対する質問、相談等についてもより充実した取り扱いを検討するなど、利用者の目線に立った分かりやすい情報開示に努めていきます。

(2) 地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立

当金庫では、10年以上前からCS活動の一環として「お客さま満足度調査」(CSアンケート調査)を定例実施していますが、お客さまのニーズやご意見をより一層営業施策等に反映させ、お客様の利便性の向上を図るため、アンケート調査の内容の見直しを行っていきます。

(3) 地域再生推進のための各種施策との連携等

当金庫では、かねてより常に地域や地元自治体との連帯・協調を意識した営業施策に努めており、その顕著な事例として、近隣他行庫の中で群を抜く「制度融資」の取扱実績があります。また、コラボ産学官の活動強化や台東区小島小学校跡を活用した「台東デザイナーズビレッジ」への参加等を通じた起業家支援に取り組むとともに、商店街に対する金融面からの支援実施など、今後とも、街おこし・地域活性化に向けた施策に取り組み、地元のベスト・コミュニティ・バンクとして活動していきます。